

教育目標	<p>嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、「嵯峨の心」の育成を目指す 嵯峨の心 ＝ 持続可能な社会を創る力</p>
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教職員が、生徒を大切にし、教育目標の実現に向けて教育活動を行った。自己評価によると「妥協せず高い目標を設定し挑戦をさせている」では、90%が肯定的な回答である。それぞれの教育活動を通して、生徒の大きな成長を確認できた1年となった。 「嵯峨中パレード」「嵐山フィールドワーク」「ヤマザクラの植樹活動」などの地域との協働を通し、「自己有用感」の向上と地域への愛情を育むことができた。この自己有用感の獲得が、学力向上の大きな要因となっている。 道徳の時間の計画的な実施、教材の開発・蓄積、評価を行い、道徳教育の充実をはかることができた。 「一生懸命はかつこいいを目指す教育実践ができたか」の質問に対して、肯定的な回答が96.8%であり、概ね達成できたと思われる。 学力向上に関しては、教職員の意識も高くなり多岐にわたる実践を行うことができた。確認プログラムの結果も上位に位置した。3年生では、私立高等学校の合否結果もとても良好で、公立前期選抜の合格率については約5割と昨年度より5P高くなり、自己実現にむけた確実な進路保障につなげることができた。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的には、日ごろの指導がしっかりできていると、概ね良好な評価をいただくことができた。 学習では、家庭学習についての指導やエスノートのより効果的な活用、地域や社会をよりよくするには何をするべきかについて考えることなどの点について力を入れるようご意見をいただいた。 スマホ等の問題については、引き続き、時代の流れに沿った指導を展開するようご意見をいただいた。 学校に対する支援については、各行事等も含め、引き続き全面的に協力をしていただける。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年6月7日	学校運営協議会
最終評価	平成31年2月21日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

これまで重点目標に掲げて実践してきた取り組み（学習基盤の確立を図り，習得した知識・技能を活用する学習活動の充実，問題解決的な学習や探究活動，主体的・対話的で深い学びとなるような取り組みの充実を推進し，「指導と評価の一体化を充実させる授業作り・授業改善」を行うこと）を踏襲した上で，新学習指導要領の趣旨の実現を図るための授業改善を行っていく。また，支援を必要とする生徒に対する指導の目標や支援内容を明確にし，総合育成支援教育の充実を図る。

具体的な取組

1. 教科会の充実を図り，教科の枠を越えて単元間をつなげていく教科横断的な授業の視点を持ち，生徒達の質の高い学びを引き出す様々な工夫を交流する。また，新学習指導要領の先行実施にあたり，単元配列表の作成を進めていく。
2. 各教科で「生徒・教員による授業自己評価表を用いた授業づくり（授業改善）実践」を工夫して行っていく，教科会で情報交換する。
3. 学年会・教科会で学力向上に向けた討議ができるように，各教科および学習研究部でデータを分析する。また，それを基に，課題やその改善方法等を検討するための機会を定期的に設ける。
4. 各教科・領域において，教材・教具の充実をはかる。本年度新学習指導要領に段階的に移行していく教科においては，その内容に注意し，教科会で情報交換していく。
5. 校内研究授業を年2回実施し（6月・11月），授業交流を通して指導力向上を目指し，授業改善を図っていく。6月は小学校へ訪問。11月は中学校へ来校，という形で，小中連携もはかる。
6. 生活のリズムを整え，落ち着いて1日のスタートを切るために，一年を通して朝読書に取り組ませる。
7. 授業に生かされる家庭学習の充実を図るため，“適切な質と量の宿題”の継続的な取り組みを行うと共に，エスノート（生徒向けスケジュール手帳）を活用し，家庭学習の時間を担保させ，“振り返り力”を身につけさせる指導を行う。
8. 希望者を対象に，G.P.S.Pを実施し，課外学習の充実を図る。
9. 定期テスト前や長期休業期間を活用して，補充学習に取り組んで行く。
10. 土曜学習の中で，個々の生徒の興味・関心に合わせた多様な取り組みを展開していく。
11. 通常の学級に在籍する支援の必要な生徒について，“個別の指導計画”“個の課題に応じた指導計画”を作成し，自立して社会参加できるための支援について保護者と共に計画し，個に応じた支援を意識し，実施していく。
12. 支援が必要な生徒への教職員の共通理解を深め，指導に役立てるための研修会や事例研修を行う。
13. 若手教員の育成・支援や指導力の向上，また若手教員と中堅教員との繋がりを深めて，互いに切磋琢磨できるようなOJTを充実させる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力学習状況調査の結果
- ・学習確認プログラムの結果
- ・教職員自己評価（言語活動の充実，授業形態の工夫，ホワイトボード・タイマーの使用状況，特別支援教育への知識と実践）
- ・生徒自己評価（聞くことの姿勢，発表・書くことへの意欲・関心，家庭学習の習慣，エスノート活用）
- ・保護者アンケート（授業の工夫，家庭学習の習慣）

中間評価

各種指標結果

○全国学力・学習状況調査の結果（全国比）

- ・国語A：「話すこと・聞くこと」+4.3ポイント，「書くこと」+5.9ポイント，「読むこと」+2.3ポイント，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」+3.4ポイント
選択式+2.8ポイント，短答式+5.6ポイント
- ・国語B：「話すこと・聞くこと」+3.7ポイント，「書くこと」+9.1ポイント，「読むこと」+6.7ポイント，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」+12.2ポイント
選択式+4.8ポイント，記述式+7.4ポイント
- ・数学A：領域において「数と式」+2.9ポイント，「図形」+5.4ポイント，「関数」+2.8ポイント，「資料の活用」+10.8ポイント，観点において「技能」+3.2ポイント，「知識・理解」+5.2ポイント，選択式+5.5ポイント，短答式+3.7ポイント

	<ul style="list-style-type: none"> ・数学B: 領域において「数と式」+7.1 ポイント, 「図形」+10.7 ポイント, 「関数」+1.7 ポイント, 「資料の活用」+4.6 ポイント, 観点において「見方・考え方」+7.0 ポイント, 「技能」+3.6 ポイント, 選択式+3.1 ポイント, 短答式+6.4 ポイント, 記述式+7.1 ポイント <p>○ジョイント・確認プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年: +4.8 ・2年: ジョイント+2.5, ベイシック 1+3.6, ベイシック 2+1.3, プレ 1+1.9 ・3年: ジョイント+3.3, ベイシック+4.3, プレ 1+1.5, プレ 2+5.4, プレ 3+4.5, 1st+5.0 <p>○教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫のある授業, 学びに向かう姿勢…100% ・アウトプットを意識した授業…96.8% ・エスノートの活用…83.9% ・聞く姿勢を意識し指導…100% <p>○生徒自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くことの姿勢…96.9% ・授業はよくわかる…90.8% ・計画を立てて学習（3年）…59.0% ・自主的な家庭学習…68.5% ・エスノート活用（全校）…58.4% <p>○保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な学習…76.0% ・わかりやすい授業…89.3% ・自主的な家庭学習…73.8% ・エスノートの活用…59.9% <p>○読書, 新聞, ニュース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の読書時間〔30分以下〕（3年）…72.9% ・新聞〔週に1回以上〕（3年）…17.3% ・ニュースをテレビやインターネットで見る〔よく・時々見る〕（3年）…84.4% ・社会で起こっている問題や出来事への関心〔よく・ほぼ当てはまる〕（3年）…62.4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○全国学力・学習状況調査, ジョイント・確認プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ全国, 全市の指数を上回った結果が出ている。全国学調では, 国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」+12.2 ポイント, 数学Aの「資料の活用」+10.8 ポイント, 数学Bの「図形」+10.7 ポイントと, 10 ポイント以上の高得点をあげている。日々, 落ち着いた授業が展開されていることに加え, 授業や定期テストにおいて記述式課題を課すことや討論・スピーチ・ペアワークの機会を設け, 主体的・対話的に深い学びとなるように授業の工夫を行ってきた成果と考えられる。 ・全国学調における国語Aの「読むこと」+2.3 ポイント, 数学Aの「数と式」+2.9 ポイントは, 全市を上回ってはいるものの, 相対的に低い傾向がある。発展的な課題解決を取り込んだ授業改善を図る中で, 基礎基本の学習についても, 正確に早くできるよう, 反復練習等積重ねが必要である。 ・ジョイント・確認プログラムでは, 予習・復習シートの活用や帯学習の成果が出ていると考えられる。しかし, 教科によっては2極化の傾向が見られるので下位層への指導が課題である。 <p>○授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによると, 授業での集中力やわかりやすい授業については, 保護者・生徒共に高い結果が出ており, おおむね良好である。エスノートの活用の成果は徐々に形となって表れてはいるが, 生徒では58.4%とさらなる上昇余地も大きく残る。引き続き, 有効な活用に向けて指導を継続していきたい。 <p>○特別支援教育への知識と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合育成教育主任のリードで, 研修会やケース会議を毎月行っている。また, 「個別の指導計画」の作成を徹底し, 保護者への周知も行っている。そのため, 教職員の意識も高い。 <p>○家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習では, 宿題で時間の大半を使っていることがわかる。宿題を忘れる生徒は少ないが, 特に学習が遅れがちな生徒に対する予習・復習の時間を捻出するよう時間の使い方を指導する必要がある。 <p>○読書, 新聞, ニュース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書」については, 1日30分以下の生徒が72.9%と多く, 図書館利用も低い。全校体制で朝読書を実施しているが, 余暇を利用しての時間確保や学校の図書室利用を推奨していきたい。 ・社会で起こっている問題や出来事への関心は高く, 「新聞を読む」, 「テレビ等でニュースを見る」生徒は84.4%と高い。職員室前に新聞を配置し, 読みやすい環境を設置している効果も出てきている。 <p>○エスノート（ふりかえり向上手帳）の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒にエスノートを導入した結果, 日々の生活の中で「時間を気にする」ようになり, 「計画をた

	<p>てること意識する」ようになった。ただ、活用については、生徒・保護者ともに6割弱に対し、教職員は8割強の数値であり、意識の差がある。さらなる有効活用が今後の伸びにつながると考えられる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決的な学習や探究活動、主体的・対話的に深い学びとなるような取組の充実を通して思考力・判断力・表現力等を身につけさせることをねらいとした授業づくり・授業改善を更に進め、発表や記述式でのアウトプットの場面を多く作る。また、発展的な学習の中に基礎基本の定着を視点において授業の構成を工夫する。 ・図書委員会の活動を活性化させ、読書への関心を高め、時間確保や図書館利用を呼びかける。 ・エスノートを積極的に活用する生徒は「時間・計画・目標の意識」、「学力向上・達成感」等が高い結果となっている。今年度、エスノート表彰を実施し、優秀者のノートを掲示もしているが、今後も良い例を積極的に提示し効果的な利用を推奨していく。 ・読書や新聞を通じて、社会で起こっている問題や出来事への関心を更に高める。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果 ・教職員自己評価（言語活動の充実、授業形態の工夫、ホワイトボード・タイマーの使用状況、他） ・生徒自己評価（聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用） ・保護者アンケート（授業の工夫、家庭学習の習慣）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の学校評価や各種テストの結果を踏まえ、今年度の学校教育目標をはじめとする学習課題や生徒指導方針、各種行事についての生徒の様子を説明しご理解をいただきご協力いただくことを確認した。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>確認プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年：ジョイプロ+4.8, ベイシック 1+3.6, ベイシック 2+1.3 ・2年：ジョイント+2.5, ベイシック 1+3.6, ベイシック 2+1.3, プレ 1+1.9 プレ 2+1.3, プレ 3+1.7 ・3年：ジョイント+3.3, ベイシック+4.3, プレ 1+5.3, プレ 2+5.4, プレ 3+4.5, 1st+5.0, 2nd+4.3 <p>○教職員自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫のある授業, 学びに向かう姿勢…100% ・アウトプットを意識した授業…96.4% ・エスノートの活用…73.4% ・聞く姿勢を意識し指導…96.7% ・自学自習…75.6% <p>○生徒自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞くことの姿勢…95.4% ・授業はよくわかる…87.3% ・計画を立てて学習（3年）…59.0% ・自主的な家庭学習…63.2% ・エスノート活用（全校）…50.1% <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な学習…71.5% ・わかりやすい授業…89.5% ・自主的な家庭学習…61.2% ・エスノートの活用…53.4% <p>○読書, 新聞, ニュース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の読書時間〔30分以下〕（3年）…72.9% ・新聞〔週に1回以上〕（3年）…17.3% ・ニュースをテレビやインターネットで見る〔よく・時々見る〕（3年）…84.4% ・社会で起こっている問題や出来事への関心〔よく・ほぼ当てはまる〕（3年）…62.4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○ジョイント・確認プログラム結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の総合得点は、全市平均を上回った。3年生については、最終+4.3と上位に位置し、概ね良好である。しかし、1, 2年についてはポイントが低下していることが課題である。 <p>○学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価では、授業での創意工夫ある授業については100%, 集中力や「聞く」ことへの姿勢については96.7%である。しかし、実際の学力については予想を下回り、結果が伴わない教科もみら

	<p>れることが課題である。授業中の様子や雰囲気は良好であるが、集中力を欠くことがあるため、深い学びにつながらないのではないかと推測する。</p> <p>生徒自己評価では、自主的な家庭学習が 63.6%であり教職員自己評価 75.9%と乖離がある。また、計画を立てて学習をしているという質問には、約 4 割の生徒が否定的な回答である。日々の授業はもとより、学習の仕方や方法、家庭学習の能率や時間など、より丁寧な指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標については 100%，アウトプットを意識した授業では 96.8%であるが、保護者の約 10%が授業の内容にさらなる工夫を求めている。日々の教材研究も含め、めりはりのある授業構成や活動の意図が生徒にも保護者にも伝わる工夫が必要である。 <p>○特別支援教育への知識と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合育成教育主任が中心となり、研修会やケース会議を毎月行っている。また、「個別の指導計画」の作成を徹底し、保護者への周知も行っている。そのため、教職員の意識も更に高まる結果に繋がった。 <p>○エスノートの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でエスノートの作成について優秀な生徒を表彰し掲示した。優秀賞に輝いたノートをモデルに更に家庭学習の内容や読書時間の確保を意識して予定を計画できるように指導した。 しかし、エスノートの活用では、生徒自己評価は 50.1%であり、教職員自己評価 73.4%と大きく差が開いている。今後、一層有効に活用できるような指導を継続していく。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度オリンピック、パラリンピック教育実践研究校の指定を受け、人権学習や道徳でその教材を効果的に活用し、大きな成果を上げることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○ジョイント・確認プログラム・定期テストの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析を行い各教科の課題が明確になった。会議で共有し、教科会でも授業改善にむけて検討いただいている。今後も教科会の充実とともに学年でも学力向上に向けての取組を促進してもらう。そのためには振り返りシートの活用やテスト前学習会の強化を行う。 また、教科会時間を内に設定し、より効果的な指導を展開していく。 <p>○学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の「学習の手引き」を作成し配布したが、授業内においても単元ごと、毎時間のめあての周知徹底を行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」になるように班活動やペアワークを有効的に活用して授業形態を工夫する必要がある。また発表の場を多く設定し、生徒の苦手知識を減らす。 ・「聞く」姿勢を徹底指導し集中力を高め、めりはりのある授業改善を行う。 <p>○特別支援教育への知識と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒も各学年に在籍しているため、今後も引き続き研修会、ケース会議を実施する。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での自学自習の習慣化については、課題の質的向上とエスノートを活用した。エスノートについては、小中連携して行っており、小学校での使用状況を検証するとともに、中学校での使用をスムーズに移行させる。教科会でも方法や成果を共有し、使用方法についても改革を進めていく。 ・アウトプットを重視した授業の展開については、ほぼ全教職員が達成できていると回答している。ただ、困りのある生徒については、実態に応じた合理的配慮等、継続的に力を入れる必要がある。 ・未来スタディ学習や、ふりスタ事業を効果的に活用し、生徒の確かな学力の定着を家庭学習等の自主的な学習について指導を徹底していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ意欲を高める創意工夫のある授業ができていた」「朝読書、総合的な学習の時間など生きる力・豊かな心を育む取組ができた」「教育の新しい流れを積極的に取り入れている」「特別支援教育において適切な指導ができています」との高評価をいただいた。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- 人権を尊重し、思いやりの心に富む生徒の育成
- 正義感や公正さを重んじる心、規範意識を持つ生徒の育成
- 主体的に考え行動できる生徒の育成
- 地域を愛し、地域の環境や地域の伝統を大切にすることをもち、地域に貢献できる生徒の育成
- よりよい社会の実現を目指せる生徒の育成
- 道徳的価値を自分との関わりも含めて理解・内省し、多角的に考え、判断する能力の育成
- 道徳教科化に向けて、評価の観点を含めた指導案の作成・実施
- 考え、議論する道徳のための授業の実施

具体的な取組

- ・道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の場面において道徳教育を進める。
- ・生徒の実態を考慮したうえで目的を設定し、4つの視点による22項目にあった適切な教材を収集・検討し、年間計画を作成する。
- ・クロスカリキュラムの中で道徳と他教科とのつながりも意識して授業を行う。
- ・道徳の教科化に伴う道徳の評価について前年度の反省をふまえて改善・実践する。
- ・道徳的実践力や価値の自覚の深まりについて振り返りが行えるような自己評価を実施する。
- ・「考え、議論する」ことができる内容を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを得られる授業づくりを実践する。
- ・公開授業や休日参観での道徳の時間の充実を図ることを通して、保護者への発信を促していく。
- ・研修会や研究授業を行い、授業改善について積極的に取り組む。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・Q-U調査
- ・道徳の生徒自己評価
- ・教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり）
- ・生徒自己評価（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感）
- ・保護者アンケート（生徒の規範意識）

中間評価

各種指標結果

- Q-U調査、クラスマネージメント、生徒自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）
 - ・全てのクラスで大半の生徒が学校に通うのは楽しいと回答している。
 - ・学校生活は楽しい…95.8% ・学級で協力してやり遂げることへの喜び…91.6%
- 教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）
 - ・地域と共にある学校づくり…100% ・積極的に学校の様子を知らせる、開かれた学校…84.4%
 - ・一生懸命はカッコいいの実践…100% ・あいさつの習慣…96.9% ・すばやい生徒指導…100%
 - ・高い目標を設定して挑戦…100%
- 生徒自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）
 - ・自己肯定感（3年）…87.9% ・地域・社会に何をすべきか考える（3年）…42.8%
 - ・人の役に立つ人間になりたい（3年）…93.8% ・地域への行事参加（3年）…52.6%
 - ・地域への行事参加（3年）…43.5% ・ボランティア活動への参加（3年）…27.2%
 - ・学校、社会の規則遵守…91.6%
- 保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を集計）
 - ・気持ちのよい挨拶…86.0% ・失敗を恐れず挑戦…69.7% ・夢や目標が持てる活動…76.5%
 - ・周りと協力して課題解決…86.0% ・学校からの情報提供…92.3% ・学校の規則遵守…92.6%

自己評価

分析（成果と課題）

○学校生活

- ・自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や楽しく過ごさせるための学級経営、見過ごさない生徒指導による安心・安全な学校生活にするために教職員が熱心に取り組んでいる。保護者の賛同も得られていることがわかる。
- ・保護者アンケート結果は概ね高い数値ではあるが、「失敗を恐れず挑戦」「夢や目標が持てる活動」についてはやや低く、目先の進路だけでなく将来を見通した進路など、生き方に対する

	<p>る指導も今後必要である。</p> <p>○地域行事への参加は 43.5%と低い、昨年度よりは 9%高い。部活動のあり方も変わり、地域の取り組みや家庭での時間が増えてきている結果であると考え。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート結果の学校からの情報提供…92.3%　、学校の規則遵守…92.6% と高い数値ではあるが、個々の生徒の動向を日々丁寧に見とることが必要である。また、不登校や不登校傾向にある生徒も多く、対策を講じる必要がある。 ・保護者対応に関して、電話連絡だけではなく家庭訪問の頻度を増やし、一層連携を密にした取り組みが必要である。また、家庭連絡の内容も生徒指導があった時だけではなく、褒める内容も伝えるなど工夫する。 ・地域行事への参加については、顧問が部活動とのバランスを考え、参加することの意義を認識し、生徒に呼びかける等の協力姿勢が必要である。また、地域行事に参加することは、地域でのボランティアであることを生徒に認識させていく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q－U調査 ・道徳の生徒自己評価 ・教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり） ・生徒自己評価（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感） ・保護者アンケート（生徒の規範意識）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽部や伝統文化部、その他多くの生徒に対し地域の方々から、さまざまな行事へ多数お誘いいただいている。同時に、生徒の地域に対する意識も高まり、将来地域を担う貴重な人材としての存在感を期待されている。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>各種指標結果（2回目）</p> <p>○生徒自己評価（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感（3年）…87.9%　　・地域・社会に何をすべきか考える…65.7% ・人の役に立つ人間になりたい（3年）…93.8%　　・地域への行事参加（3年）…52.6% ・ボランティア活動への参加（3年）…27.2%　　・学校、社会の規則遵守…96.6% <p>○保護者アンケート（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶…83.2%　　・失敗を恐れず挑戦…64.6%　・夢や目標が持てる活動…73.9% ・周りと協力して課題解決…85.6%　　・学校からの情報提供…89.3%　・学校の規則遵守…93.7% <p>○教職員自己評価（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と共にある学校づくり…93.5%　　・積極的に学校の様子を知らせる、開かれた学校…88.8% ・一生懸命はカッコいいの実践…96.8%　　・あいさつの習慣…93.3%　・すばやい生徒指導…96.8% ・高い目標を設定して挑戦…90.0%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が高い目標を設定して挑戦させていることについて、90%が肯定的である。また、生徒も 95.8%が学校生活は楽しいと回答している。嵯峨中パレードをはじめとする様々な行事を通して、自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や学級経営、見過ごさない生徒指導による安心・安全な学校生活にするために教職員が熱心に取り組んでいる。保護者や地域の理解と協力も十分得られている。 ・保護者アンケート結果は概ね高い数値ではあるが、失敗を恐れず挑戦が 64.6%、夢や目標が持てるが 73.9%とやや低く、身近な進路だけでなく将来を見通した進路など、生き方に対する指導も今後必要である。 <p>○社会への貢献、規範意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つ人間になりたいと考える生徒は、93.8%と高い。地域行事への参加は 52.6%と低い、

	<p>昨年度よりは約 1 割高くなった。部活動のあり方も変わり地域の取り組みや家庭での時間が増えてきている結果である。本校では、地域の取り組みや行事も多く、生徒も積極的に参加をし、そのことを楽しんでいる。一つひとつの行事に丁寧に参加を促し、生徒が将来地域に担い手に育つよう見通しをもって指導を継続していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校の規則遵守については、保護者 93.7%，生徒 96.6%とともに高く評価している。引き続き、社会におけるルールや法の重要性、許されない行為についての指導を徹底し、自らが正しい判断をできるような素地を育てていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己有用感・意欲を高める教育活動の実践や楽しく過ごさせるための学級経営、見過ごさない生徒指導による安心・安全な学校生活にするために教職員が熱心に取り組んでいるところではあるが、家庭訪問など時間を惜しまず、個々の生徒・保護者の状況を的確に把握し細やかに対応していく。 • 不登校生徒への連絡や対応は、不登校対策委員会を中心に情報を共有しながら、きめ細かく組織的に対処する。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 特に各種行事では、PTAや地域各団体の協力を得ながら、学校教育活動を展開することができた。今後も、地域と共にある学校づくりを目指し、保護者や地域の願いを大切にしながら取り組んでいく。 • 地域の行事や取り組みにも積極的に生徒の参加を促し、やがては地域の担い手に育てるよう、長期的な見通しをもって取り組んでいく。 • 規則順守については、非行防止教室や薬物乱用防止教室等、外部講師の協力を得ながら継続をしていく。 • 不登校対策では、スクールカウンセラーの助言も得るとともに養護教諭とも密接に連携し組織的に対応し人数を減らす。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「心の通った生徒指導」「家庭とのきめ細かい連絡」「保護者や生徒が気軽に相談できる雰囲気づくり」「生徒指導の素早い対応」など高評価をいただいた。 • 行事の参加等でも、様々な生徒の活躍の場として、生徒に関しても個々の良いところを認め引き続き力を入れてほしい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- 生徒の健康と生活実態を把握し、健康な生活が送れる習慣を育てる。
- 生徒一人一人が自らの心身の健康や安全について理解し、生涯を通して健康や安全の保持増進をする態度や意欲を培う。

具体的な取組

- ・学校教育目標である「嵯峨の心」の育成を目標に、またキャリア教育との関連を深め、教科、道徳、総合の時間、学校行事において、また地域とのつながりも大切にし、豊かな心と健やかな体の育成に努める。
- ・生活習慣の乱れ、ストレスや不安感の高まっている現状を踏まえ、こころの健康を含め自らの健康を維持し、改善することが出来るように指導、助言する。
- ・性教育学活を行う。(生命誕生や男女交際、エイズなど性に関する知識を深めさせる。)
- ・防煙教室、薬物乱用防止教育を行う。(その有害性・危険性について認識を深めさせ、好奇心や人からの勧め等に関して、適切に対応できる態度を養わせる。)
- ・保健委員会活動の「換気キャンペーン」「生活習慣見直し習慣」の実施や朝学活での「健康観察」で生徒の健康把握に努める。
- ・生徒及び保護者が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるように、積極的に食教育に取り組む。(生徒・保護者対象の「食教育」に関する講演会の開催、食通信「食 ing」の発行、昼食時間の延長、昼食時の食育放送)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・愛宕登山における朝練習参加状況
- ・生徒自己評価(「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」における実態、部活動への参加)
- ・給食の喫食調査

中間評価

各種指標結果

○生徒自己評価

- ・起床時間(7時まで)
1年…61.3%, 2年…58.9%, 3年…54.1%
- ・就寝時間(11時まで)
1年…69.1%, 2年…45.2%, 3年…31.7%
- ・朝食
〔ごはん(パン)、おかず、飲み物(汁物)〕 1年…62.7%, 2年…57.4%, 3年…55.2%
〔ごはん(パン)だけ、おかずだけ〕 1年…22.5%, 2年…25.4%, 3年…20.8%
〔飲み物(汁物)だけ〕 1年…0%, 2年…0%, 3年…0%
〔食べない〕 1年…1.0%, 2年…1.0%, 3年…2.7%
- ・部活動参加(3年) …91.8%

○教職員自己評価

- ・食育や休養について指導…84.4%
- 給食申込率…4割の生徒が申し込んでいる。

自己評価

分析(成果と課題)

○起床・就寝時間

学年が上がるにつれて起床時間と就寝時間が遅くなる傾向がある。3年生にとっては、夜遅くまで学習していることが影響していると思われる。

○朝食

- ・朝食を摂っている率は、昨年度より10～15%高くなっている。これは、本校が食教育に力を入れている結果が反映されていると考えられる。しかし、食べない生徒もわずかながらあり保護者の協力や働きかけが必要である。
- ・部活動への参加は9割強で、それぞれの希望した種目で自己の可能性を伸ばすべく、努力をし実績をあげてきた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保健委員会を中心に、朝食の重要性と内容の見直しを呼びかける取組を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・食教育主任による「食 ing ニュース」の発行や昼食時間に行っている食や給食に関する啓発放送を継続して行う。 ・特に３年生に対しては、「早寝・早起き・朝ご飯に朝読書」の定着を目指し、規則正しい生活について再認識させる。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自己評価（「早寝・早起き・朝ごはんに朝読書」における実態，部活動への参加） ・給食の喫食調査 他
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や社会体育で表彰を受ける生徒が多いことについて，その活躍を評価していただいた。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 <p>○生徒自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べていますか。（３年）…89.6% ・毎日，同じくらいの時間に寝ていますか。（３年）…82.7% ・毎日，同じくらいの時間におきていますか。（３年）…92.5% ・食事や休養など，体のことなど気を付けている。…83.4%， <p>○給食について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申込率…４割の生徒が申し込んでいる。 ・喫食調査より，主食の喫食率は，１年生 83%，２年生 87%，３年生 87%であった。 牛乳の喫食率は，１年生 82%，２年生 81%，３年生 98%であった。 副菜，デザートはの喫食率は，献立によって 51%～81%であった。 ・部活動参加（３年）…91.8% <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育や休養について気をつけていますか。…76.3%， <p>○教職員自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育や休養について指導している。…86.6%
自己評価	分析（成果と課題） <p>○起床・就寝時間</p> <p>83%の生徒が毎日同じくらいの時間に寝て，93%の生徒が毎日同じくらいの時間に起きている。全校を通して，遅刻する生徒は少なく，およそ規則的な生活習慣が身についている。</p> <p>○食育と休養</p> <p>学校給食の申し込みは，約４割と高く，食教育主任を中心に昼食時間の放送や「食 ing ニュース」などの発行により，生徒の意識がかなり向上してきている。</p> <p>喫食率についても，主食は 83%～87%，献立にもよるが副菜についても 80%を超えるものもあった。食事や休養について気を付けている生徒は，83.4%，保護者は 76.3%，教職員は 86.6%，とばらつきはあるものの，大半の生徒が意識をしている。しかし，家庭教育力の弱さから支援の必要な生徒もあり，継続的な指導が必要である。</p> <p>○部活動</p> <p>部活動については，ソフトボール部の府下大会優勝，秋季大会優勝や野球部の夏季選手権大会優勝をはじめ多くの入賞者があり，学校全体にも勢いを感じることができた。</p> <p>○その他</p> <p>インフルエンザについては，保健委員会の換気，うがい，手洗いなどの取り組みもあり，１クラスが学級閉鎖となったものの，それ以上拡大することはなかった。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会を中心に，朝食の重要性と内容の見直しを呼びかける取組を行う。 ・食教育主任による「食 ing ニュース」の発行や昼食時間に行っている食や給食に関する啓発放送が効果を発揮していると考えられる。

	<p>・PTAとも連携し、給食試食会や研修会を通して食の大切さについて啓発をしていく。</p> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じた性教育や、薬物乱用防止教育、非行防止教室等を実施する。また、生徒の現状と課題を考え、外部講師を招いた講演会を実施する。 ・食教育については、生徒より保護者の意識が7%低いので、給食試食会やホームページ等などを通して意識を高めていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>部活動や社会体育で表彰を受ける生徒が多いことを知り、その活躍を褒めていただいた。</p>

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>嵯峨学園としての教育活動の充実を目指す。</p>	
<p>具体的な取組</p> <p>① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での自学自習の習慣化（課題の質的向上とエスノートの活用） ・アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動） ・諸調査結果を活かした授業の改善 ・妥当性、信頼性に基づいた学習評価の実施（評価ソフトの活用、説明責任の実行） ・課題解決に向けた補充学習の改善と実施 ・困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施 ・3学期制の実施（5回の定期テスト、各学期末の成績提示） ・「特別の教科 道徳」の実践 <p>H30年度 重点項目 B 主として人との関わりに関すること [友情, 信頼]</p> <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること [遵法精神, 公德心]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の再検討 <p>② 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進 ・9年間を見通した学習指導計画の作成（小学校の学習内容の理解と系統性の検討） ・小中一貫教育推進体制の構築 ・京都嵯峨学園評価の再検討 <p>③ 創立50周年記念事業の実施【地域との信頼関係の深化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念誌、記念品の作成 ・記念式典、記念祝賀会の開催 平成30年11月2日（金） ・記念イベントの開催（各行事との連携） ・校内設備の拡充 	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価 ・生徒自己評価 ・保護者アンケート ・学校運営協議会の評価 他 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>○京都嵯峨学園としての活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3小学校合同すもう大会における審判・補助 ・愛宕街道灯籠合同展示 ・「嵯峨中パレード」のぼり交換 <p>○小中合同の会議・研修、取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研究授業（6月） ・小中合同教科、分掌等の会議（8月）

	<p>○ホームページのアクセス数 上半期 68640 件（昨年度比進捗率 75.8%）</p> <p>○京都嵯峨学園の認知度〔平成 30 年度中学校結果〕（「思う」「ほぼ思う」を集計）</p> <p>・名称の認知度…85.2% ・教育活動の情報提供…79.9% ・小中の連携…82.7%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○小中合同教科，分掌・係別会議</p> <p>・京都嵯峨学園では合同主任会や小中連携合同授業研修会，夏季小中合同研修を通して相互の取り組みを紹介したり，授業参観を通して小中の垣根をこえた協議が行われ，成果をあげることができた。</p> <p>○ホームページ</p> <p>・アップする担当者を，分掌の中に広報係として各学年に設置し，できるだけ毎日更新している。</p> <p>○京都嵯峨学園の認知度</p> <p>・昨年度に比べ，4～6%上がったことは，各取り組みが保護者や地域にも評価されつつある結果である。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・小中合同教科，分掌・係別会議を実施したが，単発で終わるのではなく，日常的に連携・情報交換をしていく体制にする。</p> <p>・広報係が，連携して各学年の様子を随時ホームページへ掲載する。</p> <p>・京都嵯峨学園の認知度を高めるために，教頭が「嵯峨学園だより」を発行して情報提供を行う。</p> <p>・アンケート項目を再検討する。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>・教職員自己評価</p> <p>・生徒自己評価</p> <p>・保護者アンケート</p> <p>・学校運営協議会の評価 他</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・「嵯峨中パレード」に関して郵送によるアンケートを実施した。</p> <p>・生徒による御輿・和太鼓・応援・ダンス等について素晴らしいと高い評価をいただいた。</p> <p>・3 学区の自治会や少年補導，交通安全推進会等の諸団体，PTA本部や校外委員，保護者ボランティアにご協力いただいた。今後も強く存続を願われており，スムーズに進行するための交通誘導について留意点をご指導いただいた。来年度への申し送りとする。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>○京都嵯峨学園としての活動状況</p> <p>・3 小学校合同すもう大会における審判・補助</p> <p>・三菱自動車新入社員体験</p> <p>・愛宕街道灯籠合同展示</p> <p>・「嵯峨中パレード」のぼり交換</p> <p>・英語教育改善事業</p> <p>○小中合同の会議・研修，取組の状況</p> <p>・小中合同研究授業（6 月，11 月）</p> <p>・小中合同教科，分掌等の会議（8 月）</p> <p>・4 校における校長会（毎月），教務主任会（毎月），主合同任会（3 回）</p> <p>・小中連絡会（5 月，3 月）</p> <p>・夏季合同研修会</p> <p>・学校保健委員会研修会</p> <p>○50 周年記念事業</p> <p>○ホームページのアクセス数 上半期 107893 件（1 回目評価時より+39253 件）</p> <p>○京都嵯峨学園の認知度〔平成 30 年度中学校結果〕（「思う」「ほぼ思う」を集計）</p> <p>・名称の認知度…85.7%（+0.4） ・教育活動の情報提供…83.6%（+3.7）</p> <p>・小中の連携…87.7%（+5.0）</p>
自己	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○小中合同の会議・研修，取組の状況</p>

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・6月には校下の小学校へ出向き、研究授業、研究協議を行った。11月には中学校で道徳、国語、社会、数学、理科、技術の研究授業、研究協議を行った。ジグソー法で協議内容の共通認識を図ることができ、成果のある研修会となった。 ・英語教育改善事業については、中学校の担当が体調不良のため不在となり、小学校の生徒を対象に各校ALTの協力で連携事業として実施した。 <p>○ホームページのアクセス数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より広報係を分掌に位置付け、更新が行われたため保護者から高評価をいただいた。特に、修学旅行や嵯峨中パレードをはじめとする行事については、高評価をいただいた。 <p>○京都嵯峨学園の認知度（「そう思う」「ほぼそう思う」を集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名称の認知度は、85.7%と前回より+0.4%とわずかながら上昇させることができた。 ・教育活動の情報提供については、83.6%と前回より+3.7%上昇した。各行事や取り組みに際しての成果をはじめ広報の結果であると思う。 ・小中の連携については、87.7%と+5.0%であり引き続き強化していく。 ・京都嵯峨学園だよりを4回発行するとともに、ホームページでも取上げ、広く周知することができた。 <p>○50周年記念事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典、記念祝賀会の開催 平成30年11月2日（金）に実施した。記念式典、戦場カメラマンの渡辺陽一氏の記念講演会 等では、地域と学校、生徒と教職員が一体となった取り組みができ、大きな成果を上げることができた。 ・各行事に50周年記念の冠をつけ記念イベントとして実施した。 ・記念誌、記念品の作成により、50年を振り返るとともに100周年への新たなスタートを生徒と共に体感することができた。 ・校内設備の拡充することができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○小中合同の会議・研修、取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の小中合同研究授業と夏季合同研修会を次年度も実施する。 ・月1回実施している4校校長会や小中連携主任会だけでなく、各係の会議を活性化する。 ・4校における英語活動における連携事業を実施する。 <p>○ホームページのアクセス数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も広報係を分掌に位置付け、毎日の更新を目標に回数増やす。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都嵯峨学園の認知度を上げるために、学園だよりの発行回数を増やす。 ・ホームページの更新回数を増やす。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員様からも「嵯峨学園の活動についての周知」が不十分であるという評価があった。 ・学園運営協議会では認知度を高めるため、4校で共通したものを作成するなどの方策を検討いただきアドバイスをいただいた。